

2019年度（令和元年度） 関西創価小学校 学校評価

1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、平和主義、文化主義、人間主義のグローバルリーダーに

4. スクールポリシー

〔I〕 明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

〔II〕 未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校(可能性の育成)
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校（心の育成）
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校（世界市民の育成）

5. 中期的目標

(1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ・ 児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ・ 「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力（「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」）を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ・ さらに、学習指導要領改訂の基本方針で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育の充実

- ・ 価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・ また、いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にする児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

(3) 「世界市民」を育成するための教育課程の編成

- ・ 学習指導要領が改訂され、2020年度から完全となる。
「世界市民」育成のために、1. 「世界の翼」となる英語教育の充実、2. 「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む、の2点を柱とした、新しい教育課程の編成や時程表の作成を行う。
- ・ 具体的には、英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業時数の増加を行う。また、創価タイム(総合的な学習)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

(4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ・ これからの時代は、高度情報化社会に主体的に対応できる様々な力を育成することが重要である。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、高度情報化社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ・ また、急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

(5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ・ 遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ・ 児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

(6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ・ 創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ・ 授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

(7) 入試広報、児童募集の充実

- ・ 少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像となる動画を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ・ 学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。
- ・ 募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願(WEB出願)を活用していく。

6. 本年度の取組内容及び自己評価

〔1〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実【**確かな学力の育成**】

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|--|---|--|
| <p>(1) 授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、公開授業の実施 ・授業アンケート実施と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が研究授業や公開授業を部会テーマ、個人テーマに基づいて計画的に行う ・授業アンケートの内容を見直し、授業力向上のための保護者・児童アンケートを実施する | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて研究授業や授業研究会を実施、全教員が公開する授業を行う ・授業アンケートにおいて児童、保護者の8割以上が授業への満足度を示している | <ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が、研究授業・公開授業を行い、授業力の向上に努めた ・ただし、公開授業が2学期後半から3学期の一定期間に集中するなど、計画的な実施が課題となっている ・児童の授業アンケートにおいて94%の児童が授業への満足度(肯定的評価)を示した。授業公開の保護者アンケートについては、Google Formを使用して集計した結果、5項目中4項目が9割以上の値を示した。 ・ただ、経年を比較してみると、評価が下がっていることが課題である |
| <p>(2) 家庭学習や読書習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化を図る ・万学の基礎である読書習慣を定着させる | <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」に示された時間や内容をもとに、保護者と協力して家庭での学習習慣を身につけさせる ・WEBの学習教材を有効に活用させる ・チャレンジ図書(学年別課題図書)の読了、ノーベルトレイン(車中読書)、スキマ読書、ワンブック運動などを推進する | <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」に示された学年の学習時間を学年の8割の児童が達成している ・9割以上の児童が、チャレンジ図書(学年別課題図書)を読了している | <ul style="list-style-type: none"> ・平均して66%の児童が目標の学習時間を達成した。保護者アンケートでは、78%という値を示した。実施時期の違いもあるが、児童アンケートとは12.6%の差異がある。学年別に達成率に差があるのが課題である ・三大行事の取り組みに、家庭学習を入れ、学校全体として取り組んだ ・チャレンジ図書の達成者は、3月3日現在で86%の達成率であった。これも学年格差が目立っているのが課題である |
| <p>(3) 学力の定着(成長保障と学力保障)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の活用と学力に課題のある児童への学力保障の取り組み ・学力の伸長を図るための評価基準の研究と作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の学力の確実な定着に努めるとともに、学力に課題のある児童に、WEBの学習教材を有効に活用するなどして、学力保障の取り組みを行う ・絶対評価を行うための「ものさし」であるルーブリック評価表を作成している | <ul style="list-style-type: none"> ・学力に課題のある児童に対して、新設するサポートスタッフの教員がスタディサポート(補習や補助学習)を行っている [学力調査で課題が認められた児童] ・絶対評価を行うための「ものさし」であるルーブリック評価表を作成している | <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果の出た6月以降、各学年別に補習の取り組みを行った。特に今年度は、SSCという補習を担当する教員組織を編成し、学力保障が必要とされる4.5.6年生の対象児童に、夏の短期補習以外にも日常的な学力保障の取り組みに努めた ・来年度からははじまる新しい観点別評価のために、評価研修や教科別の評価計画書の作成を行った。教科別のルーブリック評価表については、今後の課題である |

〔2〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進【**豊かな人間性の育成**】

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|--|--|--|
| <p>(1) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究と道徳カリキュラムのブラッシュアップ | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに評価研究を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の公開授業を行い、道徳の授業力を高める ・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画を整備、更新する | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の公開授業については、1年生で「個性の伸長」に関する授業を行う ・特別の教科道徳を実施して、各学年のカリキュラムや道徳の全体計画を見直した。その流れの中で、来年度から採択する教科書を変更とした ・所見ならびに道徳所見の見本を作成。「新・創価の子」の内規の冊子に入れていきたい |
| <p>(2) 児童セーフティネットの推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生活アンケートを実施する | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、課題を抱える児童のケースカンファレンス | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期と2学期に児童生活アンケートを実施し、いじめや友人関係 |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童が生き生きと学校生活を送るための取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や学習障がいなど、課題を抱える児童のケースカンファレンスやいじめに関する研修会を開催する | <ul style="list-style-type: none"> ・スを積極的に行ったり、年2回以上の児童セーフティネット研修会を開催したりしている | <ul style="list-style-type: none"> ・などのトラブルの早期発見に努めた。また問題行動対策会議も実施した ・スクールカウンセラーを交えたケースカンファレンスを積極的に行った。特に3学期からは、教育アドバイザーも加わり定期的なカンファレンス開催に努めた ・6月にいじめ、10月に不登校・児童理解に関する児童セーフティネット研修会を行い、児童理解を深めた ・1月については、長期欠席者児童の状況報告を行い、情報を共有した。また、児童保護者対応マニュアルを作成し研修を行うなど、新しい課題の対応に力を入れた |
| <p>(3) 児童の育ちを互いに共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の育ちを共有するための生活ルーブリック評価表を作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・過程を評価するために、生活のルーブリック評価表を作成し、児童の育ちを共有できるようにする | <ul style="list-style-type: none"> ・創価の子(通知表)の生活項目について、生活のルーブリック評価表を作成し、指導の目線を揃える | <ul style="list-style-type: none"> ・「新・創価の子」の生活のようすを表す項目や表現などについて、夏・冬の集中討議で検討し、創価の子の目指したい姿を共有した ・生活の項目は、創価の子として身につけて欲しい事柄を学年の発達段階に応じて以下のように定めた ア、「礼儀正しく人と接すること」(挨拶・返事、言葉遣い) イ、「節度ある生活をする事」(時間を守る、整理整頓) ウ、「ルールの遵守とマナーの向上・進んで活動へ参加すること」(ルールとマナー、係等の活動、給食、清掃) |

〔3〕「世界市民」を育成するための教育の充実【世界市民の育成】

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|--|---|---|
| <p>(1) 英語授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1コマの全学年ET(イングリッシュタイム)の実施と英語授業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝のET(イングリッシュタイム)を担当のもとで実施するとともに、英語カリキュラムを充実させる ・5.6年生の英語の展開授業を実施する | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で担任の指導の下、朝のET(イングリッシュタイム)で、教材(Switch)Grade1を実施する ・英語評価について検討する | <ul style="list-style-type: none"> ・教材「Switch On」を使った朝のイングリッシュタイムを実施した(「Switch On」導入2年目) ・毎週定例で英語推進委員会を開催し、計画的にET(イングリッシュタイム)を実施した ・来年度の英語の教科化に向けて、教科書の選定や学習・評価方法について、話し合った。来年度から、5.6年生の英語は、45分の教科2コマと、ETの合計3時間となることになった |
| <p>(2) 国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験交流、作品交流の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流行事を通して、世界市民を育成する国際教育を進める ※OEV (OSAKA ENGLISH VILLAGE) | <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルキャンプ(5年生)、OEV(6年生)、北京第一実験小学校との交流絵画展を行っている | <ul style="list-style-type: none"> ・創価大学で学ぶ留学生を迎えて、9月6日にグローバルキャンプを開催し、5年生と交流を深めた ・5.6年生の英語研修を12月6日、大阪イングリッシュ・ビレッジ(OEV)で実施。4年目となる本年は、昨年が続いて会場を貸し切り、オリジナルのプログラムで行った ・4月25日、中国・北京第一実験小学校との第26回「交流絵画展」のオープニング式を行い、2週間にわたって絵画展を開催した ・OEVでの英語研修については、5年生一学年での実施の提案があり、今後検討していくことになった ・10月29日中国青島市教育交流団をお迎えし、全校児童と交流した ・11月20日マレーシア全国作家協 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 会連盟の方々をお迎えし、4年生と交流会を開催した |
| <p>(3) 生活科と総合的学習(創価タイム)の充実</p> <p>・探究型学習への研究と移行</p> | <p>・新学習指導要領に基づいた総合的学習の全体計画を作成し、生活科と総合的学習の時間をつないでいく</p> <p>・「平和」「環境」「人権」「開発」などをキーワードにした探究型学習の研究を行う</p> | <p>・年度初めに課題を設定する時間を設けて、大単元学習として取り組んでいる</p> <p>・「ともに生きることを考える世界市民の育成」を目標に、学習のプロセスで探究している</p> | <p>・校外学習を本年度から、学習要素の強いFW(フィールドワーク)として行う</p> <p>・探究型学習への移行を推進</p> <p>より柔軟なカリキュラムの設計で、子どもの学びの方向性に対応する。具体的には、毎年同じメニューをするという教科的な考えからゴールフリー型の学習活動で、児童の育ちを大事にする学習への移行を図る</p> <p>・生活・創価タイム部会を開催し、カリキュラムマネジメントの視点から、校外学習・栽培活動等の見直しを検討した。その後、学年会や企画会を通しながら、さらに検討を重ね来年度に引き継ぐ単元を研究した</p> <p>・6年生は、ユニセフ協会の出前授業を受けたり、募金活動を行ったりする中で、`ともに生きる、ことを学び、深めた</p> |

〔4〕時代に即した教育の推進【情報教育・小中連携の推進】

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--|--|--|--|
| <p>(1) メディア教育を推進</p> <p>・ICT機器(パソコン・iPad)の活用推進</p> | <p>・ICT機器を学習に使用したり、情報の時間で情報モラルについて学習したりしている</p> <p>・プログラミング学習について、授業を行ったり、研修をしたりして理解を深める</p> | <p>・ロイロノートや習熟用のアプリで学習に取り組み、情報モラルについて学習している</p> <p>・高学年の情報で、プログラミング学習について授業を行っている</p> | <p>・高学年(4.5.6年生)の教室に1人1台の端末機の環境を整え、ロイロノートや習熟用のアプリで学習に取り組んだ</p> <p>・小学校段階からのプログラミング教育の必修化を前に、6年生でプログラミングの実践を公開授業として行った。高校の情報先生とも意見交換を行うことができた</p> |
| <p>(2) 小中連携教育の推進</p> <p>・小中ブリッジプログラムの充実</p> | <p>・小中連携年間計画にしたがって、ブリッジプログラムを行う</p> <p>・中学へのスムーズな移行ができるように小・中の連携を充実させる</p> | <p>・年間計画に沿って、学園ステイ、中学生生活ガイダンス、校長面談を行っている</p> <p>・3学期に連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を行っている</p> | <p>・中学ブリッジプログラムの一環として学園ステイを、5月31日・6月1日に実施し、関西創価中学校(交野市)進学への意欲を高めた。年間計画に沿って、1.2学期には、校長とのグループ会食懇談、3学期には個別面談を行った</p> <p>・小中連携年間計画を策定し、学年連絡会議・運営会議・推薦会議などで連携をとって進めた。また、中学へ引き継のための個別連絡シートの作成を作成し、連絡会議を行った</p> |

〔5〕規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立【児童生活の充実】

| 今年度の重点目標 | 具体取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--|---------------------------------------|--|--|
| <p>(1) 積極的な児童指導</p> <p>・礼儀礼節と規律の指導</p> | <p>・発達段階を踏まえた「挨拶」「マナー」「ルール」の指導を行う</p> | <p>・通学時には、進んで挨拶し、「思いやりノートク」を行っている</p> <p>・生活面におけるルーブリックの評価指標を定める</p> | <p>・「思いやりノートク運動」を実施して4年。身に付いている児童とそうでない児童の差がめだっている</p> <p>・「創価の子(通知表)」の「生活のようす」の討議の中で、必要な項目とその評価指標について話し合った</p> <p>・登下校においても、規範意識の低下が目立ち、きめ細やかな継続的な指導が必要となっている</p> <p>・昨年、グラウンドでの事故を防ぐ</p> |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | ためにルールを再度見直し徹底。今年度はそのスムーズな運用に努めた |
| (2) 健康づくりの推進 ・健康増進のための食育の充実と積極的な体力づくりの推進 | ・食育の全体計画や、体力向上計画に沿って、教科と連動する授業を行ったり、各種の体育的な大会を実施したりする | ・2か月に一回、食育委員会を開催し食育の充実を図っている ・学期ごとに、各種の体力向上の取組を行っている | ・食育委員会を隔月に開催、各科目と連動した授業も増加した。給食トークや給食クイズとともに、児童の考えた献立なども給食に生かした ・体育推進委員会を中心に各種の大会を開催し、体力の向上に努めた ・集中健診治療表の提出状況が厳しい。今後しっかりと訴えていきたい |
| (3) 安心・安全の指導の強化 ・防火、防犯、防災等の教育の強化 ・朝の時間帯の遵守 | ・年間計画に基づいて、安心・安全のための指導・訓練を実施し、意識を高める ・なかよし会（地域別児童班）の意義を再確認し、地域別指導を行う ・朝の時間帯を遵守するための取り組みを行う | ・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を行っている ・早期下校訓練をなかよし会（地域別児童班）で実施している | ・年間計画に基づき、各種の訓練を実施。例年2月に行っていた防犯教室を、夏休み前でインフルエンザの心配のない、7月に低高別に開催した ・早くなり過ぎている登校を新時間帯に変更して生活のリズムを安定させるように努めた |

〔6〕 教員の資質・能力の向上のための研修の充実と業務改善 **〔各種研修の充実と業務改善〕**

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|---|---|--|
| (1) キャリア研修の実施 ・年代別のキャリア研修を実施 | ・初任者研修会・青年研修会を年間計画に則って行う | ・年6回の初任者研修会・青年研修会を行い、教師力を高めている | ・年間計画に沿って、年5回の初任者研修会・青年研修会を開催した ・講義型とワークショップ型など、学びの形を変え、受講者とともに担当する講師も、教師力の向上を図ることができた ・3月25日にキャリア教育の研修会を行い、キャリアパスポート導入にあたる意識と学びを深めた |
| (2) 教育力向上の研修の充実 ・教育力を高める研修を実施 | ・校外研修へ積極的に参加したり、校外の講師を招いての研修を行ったりする | ・外部講師を招いての研修を年2回以上行っている | ・研究授業や授業研究会に教育アドバイザーや外部講師を招いて、年4回実施した。教案の作成から、指導を受け、授業力を高めた |
| (3) 教務システム更新に伴う業務改革の推進 ・新システムのスムーズな導入と業務の見直し | ・端末機(iPad)使用による会議の効率化を図る ・書類の標準化や会議のルールを徹底し、会議の価値化を図る。 | ・教務システム導入が、負担軽減と質の高い教育力の向上に寄与している ・業務負担を軽減するなど、業務改善に努力している | ・新しい教務システムは、多岐にわたる活用ができるが、使い始めのためシステムカスタマイズと馴れるのに時間を要した ・デジタルサイネージを職員室から操作できるように改善し、効率を高めた ・普通教室のPCのPasswordの設定を新たにしてセキュリティの改善に努めた ・自宅FAXが無い保護者の連絡方法も提示するなど、業務負担の軽減に努めた |

〔7〕 児童募集・家庭との連携の充実 **〔地域・家庭との連携〕**

| 今年度の重点目標 | 具体的取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|--------------------------------------|---|---|
| (1) 募集行事・広報活動の充実 ・広報ツール・オープンキャンパスなど広報行事の充実 | ・広報ツールの充実と、魅力的なオープンキャンパスなどの児童募集行事を行う | ・ホームページやSNSなどを効果的に活用し、体験授業・体験給食などを実施し、募集活動の充実を図っている | ・学校見学会や説明会などで、体験授業や体験給食などを実施した。さらに、教育講座や音楽クラブの催し物などを加え、募集活動の充実を図った ・少子化の急速な進展に対応を図る募集を考えるため、来年度は校務 |

| | | | |
|---|--|--|--|
| | | | 分掌に児童募集部を設置することになった |
| <p>(2) 家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> メルポコを使用した家庭連携の迅速化や保護者ポータルサイトの設置と活用 欠席・遅刻連絡ホームの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 定期的にメルポコを使用して、保護者に学校の月行事予定等を発信する 保護者ポータルサイトを設置し、保護者に有効な情報を発信する 欠席・遅刻連絡ホームを整備し、保護者に通知、活用してもらう | <ul style="list-style-type: none"> 月ごとにメルポコで行事予定や学校情報を発信している[月2回以上] 保護者ポータルサイトをWEB上に設置している 欠席・遅刻連絡ホームを保護者ポータルサイト上に整備、保護者が活用している | <ul style="list-style-type: none"> 本年度から保護者ポータルサイトに、遅刻・欠席連絡フォームを開設して、学校への連絡をスムーズに行えるようにした。月ごとのメルポコ発信に加え、インフルエンザや台風・地震対応、校外学習の解散連絡など、学校情報を積極的に発信した 新型コロナウイルスによる臨時休業日の期間、学習の動画配信を積極的に行った |

7. 自己評価アンケートの結果と分析

| 自己評価の結果と分析 | 評価委員等からの意見 |
|---|---|
| <p>〔1〕 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員全員が研究授業、公開授業を実施することが定着し、児童の能力を伸ばすための授業の工夫を重ねている。今年度は教育アドバイザーにも入っていただき、授業分析を通してアドバイスを受けることができた。教科における一貫化を目指して学力を伸ばしていくことが必要だとのアドバイスも受けた。 各学年は家庭での学習習慣を身につけさせることを目的に「家庭学習の手引き」に記された学年別の自宅学習時間達成を目標に取り組んだ。保護者アンケートでは、78%が達成しているとの回答であった。しかし、学力が伸びない児童は、家庭学習が定着していない実態も浮き彫りになった。 学力が定着できているかどうかを因るについては、標準学力調査を学力スケールとした。高学年では、国語・算数ともに、校内正答率において目標値を超える結果が出たものの、各教科の領域においては課題が見られるところもあった。 漢字の定着を目指した漢字検定は、受験した級にはほぼ全員が合格することができたが、漢字の定着が難しい児童のフォローは必要であった。 学力調査の結果が出た6月以降に、各学年別にスペシャル・スタディと銘打って補習の取り組みを行った。4・5・6年生の学力に課題がある児童については、夏の短期補習を行って学力保障に努めた。今年度は5・6年生が学力テストを実施していることに加えて4年生も学力テストを実施し、児童の学力定着に努めた。学力保障の取り組みについては、今後も協議を重ねていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を定着させることが家庭での課題である。記録カードなどを配布し工夫している学年もあるが、低学年のときに習慣をつけていきたいと感じている。 毎日の宿題はしっかりできている。算数などはどうアドバイスしていいかわからないところもあるので宿題の点検はお願いしたい。 標準学力調査の結果をみて補習体制を組んでいただいているのは大変ありがたい。 漢字検定や英検Jr.などの取り組みが、子どもの学びへの意欲を高めていると感じる。 |
| <p>〔2〕 豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回実施しているアンケートを通して、児童の心に寄り添い対応した。道徳や総合学習を通して、人権意識を高め、他者を受け入れることの重要性を教えた。いじめ防止や長期欠席者の状況を報告し合い教師自身の学びの機会も設けている。 スクールカウンセラーを交えたケースカンファレンスを軸に、児童や保護者に対するきめ細かな対応を心がけてきた。児童の課題は様々であるため、今後も児童や保護者に丁寧に関わっていくことに努めていきたい。 児童生活の基本となる事柄を身に付け定着させるために、児童の育ちを互いに共有することが必要になる。学校生活評価表作成に向けて教師間で討議を重ねることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーが週3回、来てもらえることはありがたい。何かあれば相談させていただきたいと思う。 保護者会や保護者講座で、子どもとの関わり方や学習の取り組み方などを学ばせていただいている。そのことを参考に実践していきたいと思う。 家庭でも良き生活習慣を身につけられるように学校と同じ目線で指導していきたい。 |
| <p>〔3〕 世界市民の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝のET(イングリッシュタイム)の時間は定着し、英語の短時間学習をより充実させることができた。ET(イングリッシュタイム)の教材「Switch」の導入も2年目になり、内容もステップアップすることができた。 英語の教科化に向けて、評価の方法について検討した。英語教育の更なる充実のために研究を進めていきたい。 創価大学で学ぶ留学生との交流である「グローバルキャンプ」は、児童にとって世界を知る貴重な経験になっている。また、海外の来賓の方々との交流も大変充実した時間となり、世界を知ることができる体験学習となった。今後も海外の方々と触れる機会を増やしていきたい。また「大阪イングリッシュビレッジ(OEV)」での英語研修は、施設を貸し切り、児童のレベルに合わせた学習を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 来年から5・6年生の英語の授業が1時間増えるとのこと。楽しく英語を学び力を伸ばすことができることを期待したい。 中学・高校の先生から関西創価小学校出身者の英語の発音が大変素晴らしいと伺った。毎日のイングリッシュタイムの積み重ねであることを実感した。 |
| <p>〔4〕 情報教育・小中連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年(4・5・6年)は、1人1台の端末機を活用。各教科の学習で積極的に使用した。ロイロノートを使って調べ学習をしたり、プレゼンテーションをしたり、自分の考えをまとめて発表するなど活用の機 | <ul style="list-style-type: none"> プログラミング教育の実施については高い関心を持っている。近所に住む子は、プログラミング教室に通っているそうである。小学 |

| | |
|--|--|
| <p>会が増え、児童もしっかり操作していた。漢字検定試験に向けてアプリを使用し、効果的に学習を進め、定着を図ることができた。</p> <p>○プログラミング教育では、5・6年生がスクラッチやレゴを使ってプログラミング学習を進めた。情報担当の教員と担任の2名で担当した。各学年の状況に応じたカリキュラム内容の検討を継続していきたい。</p> <p>○中学へのスムーズな移行を行うため、中学校の管理職による中学生生活ガイダンスを実施。様々な質問にも答えてもらい、児童にとって、中学校への思いを深める機会となった。校長懇談は中学で頑張ることや将来の夢に向けて頑張ることを決意する機会にもなっている。中学への引継ぎのため、中学校のカウンセラーに折々に来校してもらい、児童の様子を観察してもらった。今後も中学校とのより一層の連携を深め、中学校に安心して進学できるようにしていきたい。</p> | <p>校で、レゴやスクラッチを使ってプログラミングについて学ばせてもらえることはありがたい。</p> <p>○中学校のことはよくわからないので、情報を発信してもらいたい。今後も小中の連携は大事になってくると思う。子どもの状況の引継ぎをしてもらえることは安心である。</p> |
| <p>〔5〕児童生活の充実</p> <p>○学校でルールやマナーを定着させることは、人格形成の上でも大変重要なことである。毎週の朝会でルールやマナーについて伝え定着に努めた。特に挨拶については、繰り返し指導した。児童は自分から進んで挨拶することを意識するようになってきた。</p> <p>○毎日給食の時間に栄養教諭が「給食トーク」として食や健康について話をしている。好き嫌いをなくし、食や健康について関心を持ってもらおうとの取り組みであるが、毎日続けることによって、児童の知識が深まってきていることを感じる。更に充実した「給食トーク」にしていきたい。</p> <p>○現在の自然現象や社会現象を考えたとき、緊急時に備えての訓練の重要性が増してくる。訓練のときは、実際の災害時の映像なども交え、自ら身を守ることの必要性を教えた。いざというときの対応について、しっかり学び安全意識を高めていきたい。</p> | <p>○小学校に通うようになって、挨拶がしっかりできるようになった。</p> <p>○車内でのマナーの定着は課題である。家庭での躾にもかかわってくるが、引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>○地震などの自然災害が多発している。今までにない状況が起きている。安全意識を高める教育を期待したい。</p> |
| <p>〔6〕各種研修の充実と業務改善</p> <p>○外部講師を招いて、授業を参観していただき、充実した授業力向上のための研修を行うことができた。</p> <p>○教育アドバイザーに授業参観していただき、アドバイスを受ける体制を整えることができ、中堅の教員が中心になり、授業力向上のために積極的に授業研究に取り組んだ。</p> <p>○発達に課題のある児童の対応についても研修やカンファレンスを通して学ぶことができた。</p> <p>○新システム導入による業務改善を図った。今年度は導入初年度であったため、操作に戸惑ったり、システム上の問題があったりした。改善しつつ取り組んできたため、大幅な業務改善とまではいかなかったが、次年度以降は更なる業務改善につながると思う。</p> | <p>○先生方が研修を重ね、楽しくわかりやすい授業を目指して、日々研鑽されていることに感銘を受けた。</p> <p>○教育アドバイザーの方が来てくださり、授業を参観され、アドバイスをしてくださる体制は素晴らしいと思う。子どもたちも学びを深めてくれるのではないかと期待している。</p> |
| <p>〔7〕地域・家庭との連携</p> <p>○学校見学会や説明会などで、体験授業や給食体験を実施。来校者は大変喜んでくださった。少子化が進む中での児童募集となるため、SNSなどを利用しての広報活動も行った。今後の児童募集のあり方については、引き続き検討を重ねていきたい。</p> <p>○学校からの情報をいち早く伝えるために、メルポコ（メール連絡システム）を活用した。インフルエンザや台風・地震の対応についても発信し、保護者との連携を密にした。また、電車の遅延などの情報は速やかに発信し、保護者が安心していただけようにした。</p> <p>○本年度も保護者講座を開催した。低学年と高学年に分けて行うことで、発達段階に応じた内容を伝えることができた。</p> | <p>○学校見学会や説明会での体験授業や給食体験は大変好評であった。先生方に直接触れることで、創価の教育に関心を寄せる方が増えると思う。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響で急遽休校になり、戸惑っていたところ、先生方が児童にたくさんの励まし動画を送ってくださった。児童へのきめ細かな対応、真心の対応に心から感謝したい。</p> |

8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・計画・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が掲げている学校教育目標は、小・中・高の一貫性を踏まえ、可能性の育成・心の育成・世界市民の育成と、ポイントを三つに集約し、まとめたものである。この目標は、創価学園のミッション・関西創価学園育成ポリシーを視野に入れ、児童の健全な成長にとって適切かつ重要なものと考えている。今後も発展的に継続する目標として掲げていきたい。とともに、目標に示した各項目については、さらにその成果を上げるための計画および具体的な方法や評価方法を検討していきたい。

2. 今後の改善方策

◎ 学校の重点目標とその実施計画

(1) 確かな学力の育成ための「各種取り組み」の充実

【授業力向上、三者協力(児童・教師・保護者)による学力の向上、学力の定着(学力保障)の強化】

教師の授業力向上のためには、授業分析が必要になる。教育アドバイザーからのアドバイスを受けながら、各人が自分の授業を分析し、課題を明確にして授業の質の向上を目指していく。

教師間の情報の共有のために互いの授業を学びあえる環境を整え、公開授業・研究授業の充実を図る。

外部講師を招いての研修も積極的に行う。
家庭への発信力を高め、児童・教師・保護者の三者の協力による学力向上を図る。
学力スケール(学力調査)をもとに、児童が学ぶ喜び、できる喜びを味わうことができる学力保障の取り組みを実施する。

(2) 豊かな人間性を育むための「心の教育」の充実
[読書教育の推進、特別の教科道徳の実践、児童セーフティネットの充実]

心を育む教育を充実させる一つとして、読書教育の推進を掲げ、良書を読めるようにしていく。
国語や図書の授業で、読み聞かせや名文暗唱などに取り組み、読書習慣の推進を目指していく。
特別の教科道徳の実践を通して心を育む教育に努めていく。
課題をもつ児童には、きめ細かなケースカンファレンスを行い、多くの教師が関わり児童の学校生活の保障に努める。
学校生活アンケートなどを通して、一人一人の児童の状況をより細かく把握するなかで、悩みや不安を持つ児童への適切な指導を行い、自己肯定感を高め、生き生きと学校生活を送れるようにする。

(3) 「世界市民」を育成するための教育の充実
[英語学習の充実・総合的な学習の研究推進]

毎朝行っている英語の短時間学習(モジュール学習)である「イングリッシュタイム」の時間を充実させ、英語力向上のための基礎力を身につけさせる。
高学年(5・6年生)の英語学習の進め方、教授法を検討し、英語教育の充実を図っていく。
各教科や創価タイム(総合的な学習の時間)・特別活動なども「世界市民」育成という観点を視座に学習活動を充実させていく。
引き続き、探究型の学習形態を視野に入れた、創価タイム(総合的な学習の時間)の研究を進めていく。併せて行事の精選や、校外学習についても、内容や見学地の見直し、活動場所の精査も行っていきたい。

3. 今後の学校運営のあり方

新学習指導要領が掲げる、人間力を育む教育を目指して、創立精神や教育方針(創価学園ミッション・関西創価学園育成ポリシー・本校のスクールポリシー)を根幹に、本校の課題を明確にしなが、教育活動を展開していきたい。
また、児童自身が抱える様々な課題(発達の課題・学習の課題)については家庭と連携をとり丁寧に対処しながら、保護者の要望にも応えていきたい。
そのためには、教員の力を結集しての取り組みが必要になる。教育アドバイザーやカウンセラーからの助言を受け、皆で協議し、教育内容を充実させていく。
そして、個々の児童に対しては最善の対応できるよう、きめ細かくカンファレンスを重ねていく。掲げた教育目標が達成できるように教育計画を立案し、学校組織も整えていきたい。
さらに、教員の資質向上に努め、教員間の連携を強化し、授業力も高めていきたい。ティーム関西小として、学校全体の教育力向上に一層努めたいと考えている。

以上